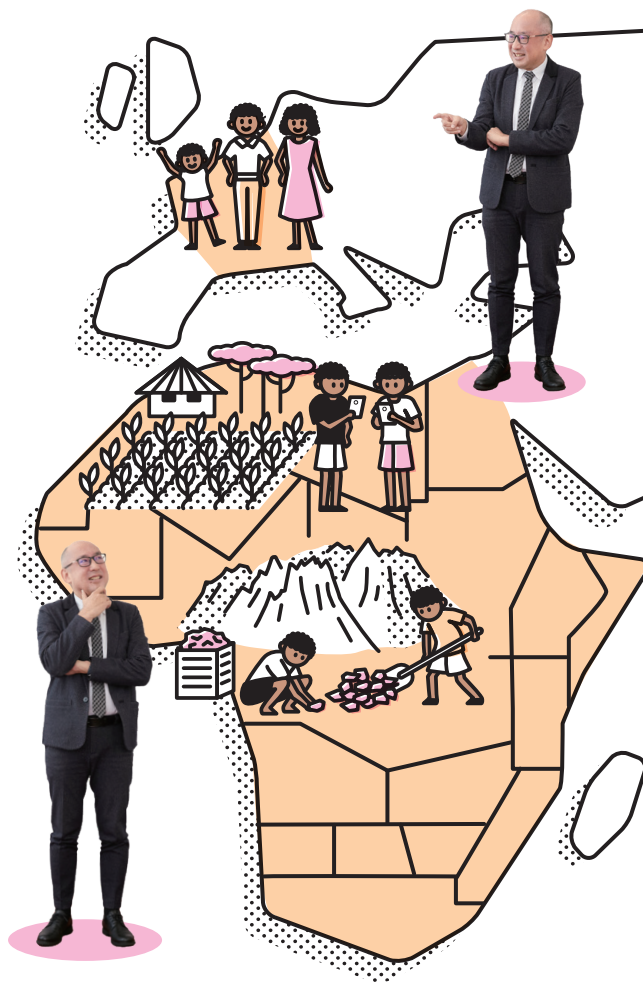




アフリカ諸国の国境に直線が多いのはどうして？



国境など必要なかったアフリカ大陸に、ヨーロッパの列強諸国が人工的に線を引いたからです。



他国が引いた国境の中で独立を果たしたアフリカ諸国。

そもそもアフリカには、「国境」という概念がありませんでした。王国は数多く存在しましたが、王が統治するのは民族であり、土地ではなかったため、国境は必要なかったのです。しかし19世紀の終わりごろ、フランスをはじめとするヨーロッパ列強が乗り込み、民族の文化や歴史を顧みることなく大陸を分割して植民地としました。分割の境界線が、独立したアフリカの国々の国境になりました。アフリカ諸国の国境に直線が多いのはこのためです。自分たちが引いたのではない国境は、同じ民族を違う国の国民にしています。民族紛争のような現在の問題の原因の一つがここにあります。

大国“日本”の一員として何をすべきか、今こそ考えたい。

「アフリカ」といえば、ゾウやキリンが群れる野性の王国をイメージする人もあるでしょう。しかし現在のアフリカは、携帯電話に不可欠なレアメタルをはじめとする豊富な天然資源で、世界の経済・産業を支えています。都市部では、建ち並ぶ高層ビルの間をスマホ片手の人々が行き来しています。一方で、レアメタル採掘場では児童労働が今も続いています。こうした現状を、日本で暮らす私たちはほとんど知りません。日本は、国際社会に大きな影響力を持つ大国です。自分の視点で世界を見わたし、大国の一員として世界にどんな貢献ができるのかを考えることが、グローバル化が進む今こそ大切です。

TEACHER'S PROFILE



加茂 省三 先生

Kamo Shozo

父の仕事の関係でメキシコに住んでいた小学生のころ、自分より年下の子どもたちが学校に行かず、街で働く姿を見て感じた不条理さが、研究の道を志す遠因になりました。専門分野は国際関係論。1960年代のフランスのアフリカ外交を研究しています。

マイブーム紹介



ワイングラスを傾けつつ、フランス音楽を聞いています。

フランスのワインと音楽を味わうことです。ピアニストのエリック・ル・サージュ。そしてマリ共和国出身の歌手アヤ・ナカムラもオススメです。日本に縁のない彼女がなぜ「ナカムラ」を名乗るのか、ぜひ調べてみてください。